

群馬県立県民健康科学大学大学院  
看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）  
2023年度 社会人特別選抜試験問題

# 小論文試験問題

群馬県立県民健康科学大学大学院

## 小論文試験問題 問題用紙

次は、Denise F. Polit と Cheryl Tatano Beck が、その著書の中で、看護実践のためのエビデンスの源としての**臨床経験**、**試行錯誤**、**直観**を論じた箇所です。その内容を読み、各問に答えなさい。

### 臨床経験、試行錯誤、直観

われわれ自身の臨床経験は、身近で機能的な知識の源である。観察に基づいて、一般化したり、規則性を見分けたり、予測したりする能力は、人間の心の重要な特徴である。臨床卓越しているという価値は明らかだが、ある種のエビデンスとしては限界がある。第1に個人の経験にはかなり限界がある、ということである。たとえば、あるナースは2～3人の心疾患患者がよく似た手術後睡眠パターンをとることに気づくかもしれない。この観察から、看護介入に意味のあるいくつかの興味ある発見にいたるかもしれない。しかし、1人のナースの観察が看護ケアで広く生じている変化を正当化するのであろうか。経験の第2の限界は、同じ客観的事象でも通常は人によって違って経験されたり、知覚されるという事実にある。

臨床経験に関係をもつものに試行錯誤という方法がある。このアプローチでは、問題の解決方法が見つかるまで、引き続き代替的な方法が試みられる。われわれはみな、専門的な仕事も含め、人生のなかで試行錯誤の方法をもちいることが多い。たとえば多くの患者は塩化カリウム液の味を嫌う。ナースは1つの方法が患者に受け入れられるまで、いろいろなやり方で服薬の味を隠そうとする。試行錯誤は、知識を確実なものにする実践的な手段となりうるが、誤りをおかすおそれがある。この方法は偶発的であり、これによって得られた知識は記録されないことが多いので、その後の臨床の場で利用することができない。

最後に、直観とは推理や事前の指示を根拠に説明することができない知識である。直観と勘が看護実践でも研究のなかでも役立つことは確かな事実だが、直観をもとにナースが政策や実践を発展させることはむずかしい。

[出典] Denise F. Polit, Cheryl Tatano Beck (2004) /近藤潤子監訳 (2010) : 看護研究 原理と方法 第2版, 12-13, 医学書院, 東京.

問1 著者の論じている臨床経験、試行錯誤、直観の看護実践のためのエビデンスとしての限界をそれぞれ40字以内で述べなさい。

問2 研究を通して看護実践のためのエビデンスを産出していく意義と目的とは何か、あなたの考えを600字以内で述べなさい。





## 注 意 事 項 （小論文試験）

- 1 小論文の試験時間は、9時20分～10時50分です。
- 2 試験問題用紙の表紙が願書提出時の選抜区分（「社会人特別選抜」）であることを確認してください。
- 3 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚です。下書きは用紙の余白をお使いください。
- 4 すべての解答用紙の所定の欄に、必ず受験番号・氏名を記入してください。
- 5 解答は、すべて解答用紙に記入してください。ただし、※印欄には記入しないでください。
- 6 問題用紙・解答用紙に不鮮明な部分や汚れなどがある場合は、声を出さずに手を挙げて、監督員の指示に従ってください。
- 7 試験中に質問や用便などの用件がある場合も、声を出さずに手を挙げて、監督員の指示に従ってください。
- 8 試験開始後は途中退場を認めません。
- 9 問題用紙・解答用紙を持ち帰ることはできません。
- 10 不正行為や、他の受験生に迷惑となる行為をした場合は、退場させることがあります。